単元別 評価規準

1 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	・契約と消費者の権利・責任に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・成年年齢が 18 歳以上となったことに対し、その責任について理解している。	・契約と消費者の権利・責任について、現代の諸課題について具体例をもとに解決しようとしている。	・契約と消費者の権利について、積極的に学ぼうとしている。

2 政治的な主体となる私たち

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	・選挙権年齢が 18 歳以上となり、参政権の意義について理解している。 ・選挙のしくみ、政党の役割などを理解している。 ・国会の地位と構成・権限、議院内閣制のしくみ等の民主政治のしくみについて理解している。	・身近な政治参加としての地方自治のしくみとその意義を理解している。また、地方自治の課題について考察しどう改善する必要があるかを考え、意見を表明できる。	・政治と地方自治等について、積極的に学ぼうとしている。

3 経済的な主体となる私たち

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	・雇用と労働問題について、日本の雇用慣行とその変化について主体的に考えられる。	・雇用事情の変化に伴う労働問題を、具体例をあげ、自分の意見を述べるができる。	・雇用と労働問題について、現代の諸課題をとらえ、将来のあり方について考えようとしている

4 経済のグローバル化

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	- 以下について理解している。 ・グローバル化の進展による貧困や格差 ・地球環境問題。 ・国際問題の解決について多様な組織の協力の重要性 ・地域的経済統合がもたらす影響。 ・貧困や格差の解消と国際機構の役割や政府開発援助の意義。 ・地球環境問題と国際的な取り組み。 ・資源の有限性と新エネルギーなどの開発への期待について。	経済がグローバル化する中で、貧困や格差などの問題を乗り越え、すべての人が幸福に暮らすために、国際社会や私たちがどうあるべきか考えることができる。	経済のグローバル化と諸問題について、興味関心を持ち、積極的に学ぼうとしている。

評価規準	(身に付ける力)	地理の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料、統計から、必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理の諸課題の解決にむけた選択・判断の手掛かりのための考え方や基本的知識を身に付ける。また、学んだ知識を活用し、与えられたテーマに基づいて、自己の考えをまとめ、文章で表現する力を身に付ける。さらに、他者が持つ意見を受け入れ、それも踏まえ、意見を発表する力を身に付けるようにする。	今後の社会を担う者として、新しい環境を受け入れ意識し多様な自然と地球的課題の解決に向けて、判断する力を育成させる。
評価方法		・提出課題、 ・プリント提出、定期考査	・定期考査 ・発問評価	・授業での発言内容・態度

単元別 評価規準

1 地図でとらえる現代世界

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度	
評価規準	(身に付ける力)	・緯度、経度、時差、図法、主題図、一般図、統計地図、日本の領域、排他的経済水域、領土、国連の役割、経済のグローバル化、国際分業と貿易の自由化、世界を結ぶ交通、情報通信、観光のグローバル化を理解し情報を収集し読み取り、まとめる基本的な技術を身に付けている。	・緯度と経度のしくみ違い、さまざまな図法、一般図、主題図、統計地図、時差、日本の位置と領域、日本の領土問題、国際紛争、経済のグローバル化、自由貿易、国際分業、世界の交通、情報通信、観光のグローバル化について目的、具体例をもとに多面的に考察、解決し表現しようとしている。	・地図課題、時差、図法、身の回りの主題図、一般図、統計地図、地理情報システム、日本の位置と領域、排他的経済水域、日本の領土問題、貿易の変化と国際分業、観光のグローバル化について、課題を主体的に追究、解決し、よりよい社会の実現の課題を主体的に追究、解決しようとしている。

2 国際理解と国際協力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度	
評価規準	(身に付ける力)	・世界の人々の生活文化の多様性と変容の要因、生活文化、国際理解、変動帯のプレートと安定地域、河川、海岸、氷河地形、カルスト地形、乾燥地形と生活について多面的に考察し理解している。・気候、季節風のしくみ、ケッペンの気候区分、熱帯、乾燥、温帯、亜寒帯、寒帯の気候、植生、生活、東南アジア、中央アジア、インド、ラテンアメリカ、ロシア、アメリカ合衆国、ヨーロッパについて理解している。	・世界の人々の生活文化が地理的環境から影響を受けて地理的環境により変容する課題、変動帯と安定地域への影響、河川と海岸がつくる地形と生活の関わり、気候の影響、気温と降水量のしくみと分布の特徴、季節風のしくみと生活の影響、ケッペンの気候区分、植生と気候の関わり、熱帯、乾燥、亜寒帯、自然環境を生かしたオーストラリアの鉱工業、季節風と東南アジアの人々の生活、熱帯気候の商品作物、言語と民族の関わり、宗教と食生活、ムスリムの生活、オアシス農業、石油資源と生活、南アジアのヒンドゥー教の影響、宗教と農業革命、インドの ICT 産業と工業化、ラテンアメリカの農業と工業、西アフリカの一次産品、携帯電話の普及の影響、ロシア文化、食生活、産業、アメリカ合衆	・生活文化の多様性と国際理解について、変動帯と安定地域のよりよい社会の実現、地震、火山活動と生活の影響、河川、海岸、氷河がつくる地形と生活の課題を積極的に学ぼうとしている。気候、大気、風のしくみ、熱帯、乾燥帯、温帯、亜寒帯、寒帯の気候と植生が生活に与える影響を主体的に追及、解決しようとしている。オセアニア東アジア、中央アジア、北アフリカ、インド、ラテンアメリカ、ヨーロッパの農業、産業、文化、宗教に関して、よりよい社会の実現の課題を主体的に追究、解決しようとしている。

		国の知的産業、サンペルト、シエール革命、穀物メジャー、適地適作農業移民国家、中国市場経済の発展の影響、EU統合の共通経済、農業政策について考察しどう改善する必要があるかを考え、意見を表明できる。	

3 地球的課題と国際協力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	・地球環境問題、資源、エネルギー、人口、食糧問題都市問題について主体的に考えられる。	・地域の結びつきや持続可能な社会に着目し主題を設定し要因の具体例をあげ、自分の意見を述べることができる。	・地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現の課題を主体的に追及、解決しようとしている

4 持続可能な地域形成と私たち

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応について理解している。 ・	地域性を踏まえた防災について自然や社会条件、地域との関わりに着目し主題を設定し、自然災害への備えや対応をどうあるべきか考え表現することができる。	自然環境と防災について、よりよい社会の実現を考え課題について、興味関心を持ち、積極的に学ぼうとしている。

目標

・社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追求し解決する活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家、社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力の育成を目指す。世界と日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解し、諸資料から歴史に関する情報を適切、効果的に調べまとめる技能を身に付ける。歴史の事象の意味や意義、特色を、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりを考察、歴史に見られる課題を解決し考察、構想し、よりよい社会の実現を視野に課題を追求、解決しようとする態度を養い、日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さの自覚を深める。

●学習内容

1 学期	2 4 時間	2 学期	3 0 時間	3 学期	2 4 時間
第 I 部 近代化と私たち	12	5 アジアのナショナリズム	15	6 日本の高度経済成長	12
第 1 章 結びつく世界と日本の開国		6 大衆の政治参加		7 アジアのなかの戦後日本	
1 18 世紀の東アジアにおける社会と経済		7 消費社会と大衆文化		第 6 章 世界秩序の変容と日本	
2 貿易が結んだ世界と日本		第 4 章 経済危機と第二次世界大戦		1 石油危機	
3 産業革命		1 世界恐慌の時代		2 アジア諸地域の経済発展	
4 中国の開港と日本の開国		2 ファシズムの伸長と共産主義		3 市場開放と経済の自由化	
第 2 章 国民国家と明治維新		3 日中戦争への道		4 情報技術革命とグローバリゼーション	12
1 市民革命		4 第二次世界大戦の展開		5 冷戦の終結とソ連の崩壊	
2 国民国家とナショナリズム		5 第二次世界大戦下の社会		6 現代の東アジア	
3 明治維新		6 国際連合と国際経済体制	15	7 東南アジア・アフリカ・ラテンアメリカの民主化	
4 日本の産業革命	12	7 占領と戦後改革		8 地域統合の拡大と変容	
5 帝国主義		8 冷戦の始まりと東アジア諸国の動向		9 地域紛争と国際社会	
6 変容する東アジアの国際秩序		9 日本の独立と日米安全保障条約			
7 日露戦争と東アジアの変動		第 III 部 グローバル化と私たち			
第 II 章 国際秩序の変化や大衆化と私たち		第 5 章 冷戦と世界経済			
第 3 章 総力戦と社会運動		1 冷戦下の地域紛争と脱植民地化			
1 第一次世界大戦の展望		2 東西両陣営の動向と 1960 年代の社会			
2 ソビエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭		3 軍拡競争から緊張緩和へ			
3 ベルサイユ体制とワシントン体制		4 地域連携の形成と展開			
4 世界経済の変容と日本		5 計画経済とその波及			

教材

現代の歴史総合見る・読みとく・考える
(山川出版社)

授業の進め方

- ・基礎、基本的用語を理解し学習活動のねらいを意識したうえで授業に取り組む。
- ・テーマ、資料、人物史を読み調べ学習をし、身の回りの社会問題や歴史的事象を主体的に考察する。

●評価規準（身に付ける力）

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	- 近現代の歴史の変化に関わることについて世界と日本を広く相互的に考察し、現代の諸問題の形成に関わる近現代史を理解する。 - 諸資料から歴史に関する情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。	近現代史の変化の意味や意義、特色を時期や年代、変化、比較、相互の関連より現在とのつながりを考察し、歴史の課題を解決する力を説明したりする力を養う。	近現代史の変化について、よりよい社会の実現を主体的に追究、解決しようとする態度を養い多角的な考察や深い理解を通じて日本国民としての自覚、我が国の歴史への愛情、他国の文化を尊重する大切さの自覚を深める。
評価方法	- 提出課題、調べ学習 - プリント提出、定期考査	- 定期考査における知識問題、資料の読み取り - 発問評価	- 授業での発言内容、態度 - 提出課題の取り組み状況

単元別 評価規準

1 近代化と私たち

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	政治参加の範囲の広がり・自由貿易による影響・積極財政と緊縮財政・紡績業と製糸業・産業革命が短期で達成された要因・領土の画定、条約改正と日清戦争、日露戦争の影響・第一次二次世界大戦の特色と影響と長期化した要因・大正から昭和の生活様式の変化・ベルサイユ体制とワシントン体制・戦後経済の内容と影響について理解している。	明治維新の政治や社会の変動・緊縮財政や金本位制への移行・払下げの意義・帝国主義の影響・琉球、北海道、北方領土の外交政策の内容・条約改正の国民が何を希望し危ぐしたか・第一次世界大戦の日本への影響・戦後の経済・ベルサイユ体制とワシントン体制の各国の立場の違いと日本の立場・日本経済の変化・積極財政と緊縮財政の方法と長所短所について考察しようとしている。	明治維新の特色と課題・日本の産業革命の特徴・領土問題の課題・帝国主義政策の特徴・欧米諸国との産業革命の違いと特徴・日清日露戦争後の領土問題や外交案件・第一次世界大戦の特徴と影響・生活様式の変容・総力戦体制の問題点・国際協調体制の課題・アメリカ合衆国が世界経済の中心になった要因を主体的に追究、解決しようとしている。

2 国際秩序の変化や大衆化と私たち

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	- 朝鮮半島や中国のナショナリズム・普通選挙法、米騒動の意義、影響を理解している。 - 交通機関、マスメディアの発達・恐慌から脱出した財政政策とその後の社会の変化・イタリア、ドイツの大衆受けした社会的背景・満州事変、日中戦争の共通点と相違点・第二次世界大戦の背景と推移・戦時下での生活内容・国際連合の目的と課題・日本の占領体制・日本国憲法の成立・二大政党・日米安全保障の意義と課題について理解している。	パリ講和会議、ワシントン体制の日本の立場・実質賃金と物価の関係・戦争による輸出入の変化・金の輸出禁止や解禁の意味と影響・工業化の進展内容・関東大震災と都市化の問題点・積極財政、緊縮財政の相違と短所長所・恐慌脱出後の社会の変化の問題点・三国同盟の背景と状況・満州事変、日中戦争の被害・満州国、国民政府との関わりと内容と影響・太平洋戦争の要因と影響・原子爆弾投下・安全保障体制の影響・日本とドイツの占領体制の共通点	ベルサイユ体制とワシントン体制で大戦を防げなかった理由・大戦景気と格差の拡大・女性参政権の実現にいたらなかった理由・世界恐慌以降の経済危機と中国の国内変化の影響・満州事変、日中戦争の影響・第二次世界大戦中の戦後構想や原子爆弾の投下・戦争中の国民の経験・国際連合の影響・日米安全保障条約の意義と変容・占領による変化・冷戦の影響・どのようにして国際社会に復帰したか・サンフランシスコ講和条約、日米安全保障

		と相違点・戦後改革アメリカ合衆国の占領体制の転換の原因と影響・安全保障の在り方について考察し、どう改善する必要があるかを考え、意見を表明できる。	条約の成果と意義を主体的に追究、解決しようとしている。

3 グローバル化と私たち

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	・諸資料をもとに冷戦がアジア、アフリカ諸国に与えた影響、反応を理解している。高度経済成長への経緯を整理し国際的、国内的な条件をもとに達成されたことを理解している。・パレスチナ問題と中東戦争の状況・インド、パキスタンの分離独立、・ベトナム戦争に対するアメリカ合衆国、韓国、日本の立場、ソ連の東ヨーロッパ諸国に対する内容、意義、影響力の変化・第五福竜丸・高度経済成長の経緯・安保条約改定の政策転換、社会格差、過疎化、公害問題・沖縄返還実現・オイルショック・ドルショック日米貿易摩擦の要因と意義、影響について主体的に考えられる。	・冷戦が国際社会への影響・地球環境問題の解決法・朝鮮戦争、中東戦争、ベトナム戦争の要因と考察・ベトナム戦争に対するアメリカ合衆国、韓国、日本の姿勢と立場の考察・第三勢力、非同盟諸国への考察・ソ連経済の鈍化していく背景・高度経済成長が安価な労働力、安価なエネルギーに支えられたことの考察・新安保条約の世論が変化した理由・日中、日韓国交正常化や沖縄返還とアメリカ合衆国政策との関連の具体例をあげ、自分の意見を述べることができる。	・冷戦下でのアジア、アフリカ諸国の課題・第三勢力の動向による影響・東西陣営の社会の変容・核兵器の開発の諸問題と日本の対応・高度経済成長、安保条約改正、沖縄返還のもたらした意義、課題、影響・オイルショック、ドルショックの問題・日米貿易摩擦や主要通貨の対米変動率の読み取りと影響の課題を主体的に追及、解決しようとしている。